

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 21年 1月18日

1. 概要

実践団体名	なでしこ防災ネット		
連絡先	0463-87-1452		
プランタイトル	「女性の視点での防災対策」日ごろの備えと家族、地域の絆		
プランの対象者	地域住民	対象とする 災害種別	地震

【プランの目的・ここがポイント！】 家庭と地域に密着している女性が、地域防災に果たす役割の大きさをしっかりと認識し、女性の防災の知識と意欲と行動力を高め、女性の視点で防災・減災・災害に強いまちづくりを目指す。男女が共に支え合い助け合える地域、防災体制づくりにむけて「災害の被害を受けやすい女性」と「防災の担い手としての女性」双方の立場から日ごろの備えと工夫をリーフレットにまとめた。それを関係者用に点訳・手話通訳・録音をした。

【プランの概要】 連携10団体と互いに得意分野を活かし、協力し合って行事を推進

- (1) 防災コミュニティサロン
 - ・4回実施し、防災についての勉強会と主催イベントの準備や反省などを行った。
- (2) 防災講演会2回実施
 - ①「わが家の防災」「災害用電話伝言ダイヤル」②「地域における男女協働の自主防災対策」
- (3) 体験型イベント
 - ・サバイバルデイキャンプ 3回 ・簡易トイレの作り方 ・三角巾を使用した応急手当
 - ・中学生避難所設営体験 ・炊き出し訓練 ・かまどづくり ・緊急搬送訓練
 - ・非常食3回「あるもの持ち寄りカレーづくり」「お鍋でごはん」「小麦粉で何ができるかな?」
- (4) 植樹・家庭菜園（ベランダ、庭先）・荒廃地を利用したの食料生産 などの推奨
- (5) リーフレット作成 「女性の視点からの防災対策」
- (6) 連携団体との交流会 3回

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・リーフレットは連携団体や行政と広角度から勉強・研究・検討、作成したものを地域に提供することにより、防災メッセージが発信できる。
- ・リーフレットを行事開催時に活用し、女性の防災意識の啓発、家庭での備えなど家族の防災力の向上から災害に強い社会づくりに結びつけることができる。また、点訳・手話通訳・録音して、関係者に役立ててもらおう。防災の普及促進につながる。
- ・サバイバル Day キャンプなどをとおして、自分の命、財産を守るすべや、ライフラインが途絶えた環境で生き延びる術を身につけ、発災時に起こることをイメージし、とるべき行動を把握する。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2008年 4月	上半期に体験型イベント、講習等、下半期にリーフレット作成	連携10団体と行事別役割分担を決める	防災コミュニティサロン 防災についての勉強会と主催イベントのための準備
2008年 5月	体験型イベント、講習等 実施	6月行事用、開催場所交渉、案内状、ポスター、看板、資料の作成	防災コミュニティサロン 防災についての勉強会と主催イベントのための準備
2008年 6月		連携団体との打合せ 資材の準備 参加人数の確認 写真、アンケート準備	6/1 田植え 6/8 あるもの持ち寄りサバイバルDayキャンプ(親子対象) たけのこほり体験 講習 もしも…の時のために「安全な場所へ避難・移送する方法」
2008年 7月		連携団体との打合せ 資材の準備 参加人数の確認 写真、アンケート準備	7/6 サバイバルDay キャンプ (高齢者・障害者) ブルーベリーの植樹 家庭で療養してる人のための防災対策 7/27 サバイバルDay キャンプ(中学生対象) 避難所設営体験、ガイドヘルパー体験
2008年 8月	リーフレット作成	サバイバルのアンケートまとめ	8/8 神奈川県総合防災センター 8/9 非常食「小麦粉で何ができるかな?」
2008年 9月			9/26 連携団体との交流会(横浜シルクセンター) 9/30 防災コミュニティサロン
2008年 10月		連携団体との打合せ	10/4 防災講演会 「わが家の防災」「災害用電話伝言ダイヤル」「秦野市の地震対策」
2008年 11月		点訳、手話通訳、録音依頼	11/10 連携団体との交流会 中央防災センター体験学習
2008年 12月		男女共同参画、危険物安全協会、秦野市との打合せ、展示・防災コーナー準備	12/10 連携団体との交流会 静岡防災センター体験学習 耐震車、煙
2009年 1月	リーフレットと防災講演会を点字本に、手話通訳録画・録音DVD編集	防災普及教材作成 ⇒点訳し点字本に ⇒手話通訳、録音DVD化	1/17 防災講演会 防災活動展示・非常食・防災コーナー リーフレット(点字用も完成)紹介

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	あるもの持ち寄りサバイバル Day キャンプ（親子対象） 筍ほり体験 講習 もしも…の時のために「安全な場所へ避難・移送する方法」
実施月日（曜日）	2008年6月8日（日）
実施場所	秦野市東田原 荒廃地
担当者または講師	団体内スタッフ：5名 外部スタッフ：コミュニティ保育さわやかさん4名 日本防災士会会員4名、里地里山を育む会3名 講師：里地里山を育む会 代表 浅見 一義 氏
所要時間または「コマ数×単位時間」	役員：8:30～16:00 参加者：10:00～15:00
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事／講習会・学習会・ワークショップ／講演会・シンポジウム
活動目的	遊び・楽しみながらの防災／災害を想定した訓練／防災に関する知識を深める
達成目標	持ち寄った食材を仲間と分け合い、助け合いながらカレーをつくる
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	安全面とお子さんは親の責任で面倒をみることを確認 挨拶、概要の説明 受付 ガイダンス・スタッフ紹介 かまど作り、ご飯炊き、筍ほり、カレー作り、テント張り、トイレ作り、 昼食、講習もしも…の時のために「安全な場所へ避難・移送する方法」 三角巾を使った応急手当、反省会、解散
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	前日に草刈をし、危険物撤去。借用物品と参加人数の確認、保険加入 配布資料、ビニールシート、棒6本、毛布、上着、三角巾、防災用品、医薬品、虫除け、殺虫剤、大釜、大鍋、ざる、ボール、まな板、包丁、灯油、ビニール袋、ゴミ袋、スコップ、ハンマー、鋸、食材、テント、まき、紙皿等
参加人数	48名
経費の総額・内訳概要	約10,000円。資料コピー代、食材、紙皿、ゴミ袋、虫除け、殺虫剤、マキロン
成果と課題	【成果】助け合いの気持ち、譲り合いの気持ちの大切さをわかった 【課題】スイッチひとつで何でもできてしまう現代ですからしかたがないのかもしれませんがマッチを使えない若い母親がほとんどでした
成果物	活動写真、アンケート結果

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム②】

タイトル	サバイバル Day キャンプ（高齢者・障害者対象） ブルーベリーの植樹 ミニ防災講演会「我が家の防災対策」「災害伝言ダイヤル171」 「家庭で療養している人のための防災対策」
実施月日（曜日）	2008年7月6日（日）
実施場所	秦野市西田原 畑
担当者または講師	団体内スタッフ：5名 外部スタッフ：民生委員2名、カレッジ協会4名、日本防災士会会員2名 里地里山を育む会3名 NPO 法人みきフレンド 5名 講師：地域防災相談員4名
所要時間または「コマ数×単位時間」	役員：8:30～16:00 参加者：10:00～15:00
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事／講習会・学習会・ワークショップ／講演会・シンポジウム
活動目的	遊び・楽しみながらの防災／災害を想定した訓練／防災に関する知識を深める
達成目標	高齢者の知恵を引き出し、参加者に伝授してもらう
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	挨拶、概要の説明 受付 ガイダンス・スタッフ紹介 ブルーベリーの植樹 かまど作り、大釜ご飯炊き、家庭菜園野菜カレー作り、テント張り、トイレ作り、 昼食、ミニ講演会、「我が家の防災対策」「災害伝言ダイヤル171」 「家庭で療養している人のための防災対策」 三角巾を使った応急手当、搬送訓練、防災コミュニティサロン、解散
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	草刈、危険物撤去→里地里山を育む会3名 NPO 法人みきフレンド5名 配布資料、借用物品と参加人数の確認、保険加入→なでしこ防災ネット テント2、炊き出し用資機材一式→里地里山を育む会3名 食材一式、その他→、なでしこ防災ネット
参加人数	57名
経費の総額・内訳概要	約12,000円。資料コピー代、食材、紙皿、参加者引率交通費 等
成果と課題	【成果】経験豊富な高齢者の知恵を若い人たちに伝授することができた 【課題】スタッフが不慣れな為障害者とのコミュニケーションがうまく取れなかった
成果物	活動写真、アンケート結果、イラスト（緊急トイレ）

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム③】

タイトル	サバイバル Day キャンプ(中学生・高齢者対象) 避難所設営訓練、ガイドヘルパー体験 ミニ防災講演会「我が家の防災対策」「災害伝言ダイヤル171」
実施月日(曜日)	2008年7月27日(日)
実施場所	秦野市東田原 畑
担当者または講師	団体内スタッフ: 3名 外部スタッフ: 民生委員2名、ボランティア連絡会1名、里地里山を育む会3 NPO法人みきフレンド4名、日本防災士会会員1名 講師: 地域防災相談員3名
所要時間または「コマ数×単位時間」	役員: 8:30~16:00 参加者: 10:00~15:00
プログラムのカテゴリ、形式	遊び・楽しみながらの防災/災害を想定した訓練/防災に関する知識を深める
活動目的	遊び・楽しみながらの防災/災害を想定した訓練/防災に関する知識を深める
達成目標	中学生が自ら考え、家族や地域に自主的に働きかけるよう行動できる
実践方法・進め方(箇条書き、またはフロー)	挨拶、概要の説明 受付 ガイダンス・スタッフ紹介 かまど作り、ご飯炊き、家庭菜園野菜カレー作り、 <u>避難所設営訓練</u> 、 昼食、ミニ講演会「我が家の防災対策」「災害伝言ダイヤル171」 <u>ガイドヘルパー体験</u> 、搬送訓練、三角巾を使った応急手当、反省会、解散
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	草刈、危険物撤去→里地里山を育む会3名 NPO法人みきフレンド4名 配布資料、借用物品と参加人数の確認、保険加入→なでしこ防災ネット テント2、炊き出し用資機材一式→里地里山を育む会3名 食材一式、その他→民生委員2名、ボランティア連絡会1名
参加人数	50名
経費の総額・内訳概要	約12,000円。食材、資料コピー代、紙皿、参加者引率交通費、写真代 等
成果と課題	【成果】防災について、啓発と意識強化につながった 【課題】参加者たちを実践活動に巻き込む
成果物	活動写真、アンケート結果、感想文

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム④】

タイトル	防災講演会と男女共同参画公開学習会
実施月日（曜日）	2009年1月17日（土）
実施場所	秦野市文化会館 小ホール
担当者または講師	共催：秦野市、はだの市民が創る男女共同社会推進会議、 秦野市危険物安全協会、なでしこ防災ネット 講師：池上 三喜子 氏 所属・役職等：日本YMCA常任委員
所要時間または「コマ数×単位時間」	スタッフ 10:00～17:00 受付 13:00～16:00
プログラムのカテゴリ、形式	講習会・学習会・ワークショップ 講演会・シンポジウム
活動目的	防災に役立つ資料・材料づくり／防災に関する知識を深める
達成目標	講演を点訳本に、手話通訳を録画しDVDに、録音しDVDに編集。 リーフレットと点訳本の紹介、リーフレットに対する意見聴衆
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演「地域における男女協働の自主防災対策」 ・ 自主防災事例発表 2 自主防災会 ・ なでしこ防災ネットの防災啓発活動展示 防災教育チャレンジプラン応募リーフレット紹介 点字リーフレット・点字防災資料紹介 非常食アルファ米の作り方と試食コーナー 防災用品の展示と説明
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師依頼、アンケート、非常食 ・ 資料作成、手話通訳依頼 2 名、録音・手話通訳録画編集依頼・ビデオ・三脚・ビデオテープ 3 本・DVD50・デッキ、 ・ リフレット両面印刷 500 部・用紙・紙折り、点訳 50 部・点字用紙・製本
参加人数	480 名（聴者）
経費の総額・内訳概要	約 200,000 謝礼、印刷・コピー代金、用紙、プリントカートリッジ、DVD、模造紙、ボード、ディスプレイ用品、写真、会場費、事務用品など
成果と課題	<p>【成果】 4 団体の共催のため女性の参加も増え、参加者が例年の 1.5 倍となった。アンケート回収 192 枚 参加者からリーフレットに対する感想や意見の収集</p> <p>【課題】 女性の参加の促進</p>
成果物	手話通訳録画、録音テープ、講演点字、アンケート、写真

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑤】

タイトル	リーフレット「女性の視点からの防災対策」
実施月日（曜日）	28回
実施場所	公民館、サポートセンターはだの、市役所会議室
担当者または講師	担当者：吉田 トシ子 所属・役職等：なでしこ防災ネット代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	8月～11月 4回/月×3h = 48h 12月～1月 6回/月×3h = 36h
プログラムのカテゴリ、形式	出前授業 教材作り
活動目的	防災に役立つ資料・材料づくり／防災に関する知識を深める
達成目標	防災普及教材として 「女性の視点からの防災対策」リーフレット作成 点訳し点字本に・手話録画しDVDに・録音しDVDに編集
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	8月～10月 防災や女性の視点、男女共同参画についての勉強会 10月～11月 防災センター体験学習、研究会、検討会、構成 11月～12月 編集会議、検討会、イラスト作成 1月～2月 1/17 防災講演会時配布アンケートで意見・感想聴衆 再度検討会、編集会議を開き修正、完成 2月～3月 防災普及教材として⇒手話録画しDVDに編集 点訳し点字本に・録音しDVDに編集
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	刊行物、新聞切抜き、インターネット、資料、 秦野市防災課、保健福祉事務所担当者との作成検討会、印刷・コピー代 用紙、プリントカートリッジ、ディスプレイ用品、写真、会場費、事務用品など
参加人数	180名
経費の総額・内訳概要	約 70,000、謝礼、資料、プリントカートリッジ、印刷・両面カラーコピー、用紙、DVD、 写真、会場費、イラスト集本、事務用品、防災センター体験学習交通費
成果と課題	【成果】大切な人と暮らしを守るために日ごろの備えの重要性の認識。作成中にもかかわらず、注文や問い合わせがあった 【課題】リーフレットを参考に地域で男女共同参画の推進の強化を図る
成果物	リーフレット、点字用、録音、手話通訳を録画し、DVDに編集 リーフレットは17日の意見を元に仕上げ中

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット作成メンバーが防災について知識不足だったため、一から勉強してのスタートだった。女性の視点、男女共同参画の視点以前の問題で、8月から10月まで36h/4回/月の勉強会を経て、体験学習（中央防災センター・静岡防災センター、神奈川県総合防災センター）、研究会、検討会、編集会議、構成、イラスト作成、点訳・手話・録音の依頼、印刷見積り、印刷と12月は6回/月の編集会議、1/17防災講演会の準備、連携団体、4共催関係者との打合せ（点訳・手話通訳・録音の録画とDVD編集依頼）を併用して進行させるのが大変でした。 ・活動資金を最小限に、最大の効果を得るために多くの団体、行政と協働で開催した。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女性への視点・女性からの視点で考える“災害と女性”支えあう災害に強い社会をめざし、防災士として新しい知識の習得、技能の向上など、スキルアップを図り、防災講演、実習活動を他の団体とお互いの得意分野で協力し合って行事を推進してきた。 ・1団体だけでプラン実行するのは準備、参加者募集も大変だが、2～3団体で協力して開催すると参加者も多層、講師依頼も団体の仲間から相互協力、お互いフォローしあいながらの実践でした。 ・ボランティア団体とはコミュニケーションをはかり、日常的に協力し合える体制作りをしている。 ・連携団体とは常時、勉強会や体験学習を開催して交流をはかっている。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地見学は残念ながら実現しなかった。 ・支援金が出るか否かがわからず不安 ・仕事の合間をみてからの活動で資料作成、報告書、発表、成果物の作成と多忙な1年であった。 ・手話本部の規約上、手話ボランティアとの交渉が非常に大変でした。 ・はだの市民が創る男女共同社会推進会議（22団体）と共催で講演会開催時、22団体の半数の賛同を得なければ共催はできないシステムになっていたためなでしこ防災ネットの団体紹介のPPT資料、配布資料作成に時間を要した。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織		
保護者・ PTAの組織		
地域組織	はだの市民が創る男女共同社会推進会議 婦人防火クラブ、自主防災会、秦野市ボラ ンティア連絡協議会、こども会	防災講演会の共催 リーフレット作成 サバイバルキャンプ
国・地方公共団体・ 公共施設	秦野市役所くらし安全部防災課、 市民自治振興課 保健福祉事務所、土木事務所	防災講演会の共催 サバイバルキャンプ アルファーマの提供 防災用品借用 リーフレット作成
企業・ 産業関連の組合等	秦野市危険物安全協会	防災講演会の共催
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	日本防災士会、コミュニティ保育さわやかさん、 かながわのあすを築く生活運動協議会、里 地里山を育む会、NPO 法人みきフレッド、あ ぐりスクールはだの、グリーンコミュニケーション、おだわ ら輝く女性のネットワーク、和の会、秦野市点訳 奉仕会、秦野市録音ひまわり、手をつなぐ 育成会	サバイバルキャンプ リーフレット作成 点訳・点字製本 手話通訳録画・録音とDVD 編集
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いいことをやっているね」という声が大変多く、口コミで参加者が増え、次の場所や材料の提供を下さった＝協力者が増えている。 ・コミュニティサロンやイベントごとにスタッフが成長している。行政や多種多様な団体との交流も深まり、互いに得意分野を活かした連携を図ることができた。 ・母親や高齢者が防災について受身ではなく、積極的に考え、家族や地域へ自主的に働きかけるように成長した。 ・はじめは無関心であった家族が母親や、おばあさん、おじいさんの熱心な働きかけにより、家具の固定や耐震、飛散防止フィルムを張ったり、防災カーテンに替えたり、防災家族会議や非常持ち出し袋の準備など防災対策をとる家庭が増えた。 ・サバイバル Day キャンプなど体験型イベントをとおして地域や連携団体ともコミュニケーションが図られ、女性主体の防災の知識と意欲を高める普及、啓発活動が地域で受け入れられてきた。 ・防災講演会時 500 部に配布した女性の視点からのリーフレットを他市数団体から 200 部送付してくださいなどと依頼があり、女性の視点での防災の輪が広がりつつある。 ・サバイバル Day キャンプなどの日ごろの活動を積み重ねた結果、多くの災害対策や課題が発見でき、その成果をリーフレットにまとめることができ、今後の実践もより自信を持って取り組み、地域に伝えていく。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は地域の方々からサバイバル Day キャンプ開催の要望があり、参加希望者多数のため、3回に分け開催し、大変忙しい1年となりました。 ・秦野市役所防災課や連携団体、地域の協力のおかげで円滑に事業自体を遂行することができたと感じています。 <p>■今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の家庭を守る女性の視点での活動を充実する。 ・男女のニーズの違いを把握した防災とは ・子どもだけでなく、配偶者や要介護者への対応もできるよう、福祉の視点からの減災を普及し、被災時に女性に集中する家庭的負担をどのように軽減するかを探る。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作成したリーフレットを活用し、次年度以降の女性の防災意識の啓発、家庭での備えなど、家族の防災力の向上から災害に強い社会作りを目指す。 ・リーフレット作成 「乳幼児を抱える母親のための防災対策」 「在宅療養者、一人暮らし高齢者向け要援護者支援のための防災対策」など ・サバイバル Day キャンプ、被災後3日非常食メニューなど実践集にまとめる ・女性の視点からの帰宅困難者防災マップを实际歩いて作成する

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ①

1/17 リーフレット展示



非常食試食



あるもの持ち寄りカレー



ブルーベリーの植樹



立木を使ったテントはり



防災講演 約 430 名参加



小麦粉で何ができるかな



簡易トイレ作り



かまどの作り方



避難所設営体験



防災講演会



アルファー米の作り方



炊き出し訓練



三角布を使った応急手当



搬送訓練



広報

日本防災士会会報 4/17 月号

活動紹介

秦野市広報 8/15 号

活動紹介

日本防災士会ホームページ会員広場

1/17 講演会案内

神奈川新聞社 1/17 掲載

1/17 講演会

タウンニュース 1/22 号掲載

1/17 講演会

**2008年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書**